

2010年7月 ロシア進出はウラジオストクから

ウラジオストク国際展示会視察4日間

＜ビジネスミッション参加者募集＞

企 画 書



△シベリア鉄道の基点(1860年ロシア様式の駅舎)港に隣接



- * 成田から2時間、アジアの中のヨーロッパへ
- * 詳しい市街地図を後にプレゼント

(株)ロシア旅行社

Tel: 03-3238-9101

Fax: 03-3238-9110

担当: 石元・福井

2010年4月20日作

(全6枚)

■ ご挨拶

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2010年7月2日・3日ウラジオストクで経済見本市が開催されます。ウラジオストクは港とシベリア鉄道の基点であり、アジア太平洋の窓として発展しています。特に日本の技術や製品を高く評価し、必要としています。弊社はロシア専門に特化し、44年間文化や経済など交流拡大に邁進し、通訳、コーディネーターとして他社の追従を許さないレベルにあると自負しています。また、NPO法人 日本・ロシア協会の理事としてレベルアップに磨きをかけております。ウラジオストク経済見本市は毎年開催されておりますが、今年は特に活性化されると言われています。どうぞご参加をお待ちしています。 敬具

お問合せ：〒102-0076 東京都千代田区五番町5-1 第8田中ビル
(株)ロシア旅行社 (観光庁長官登録旅行業第98号)

ウラジオストクの概要

沿海地方は面積165,900平方メートル(北海道の約2倍)、全土の70%が森林に覆われている。2010年1月1日付けの沿海州人口は約198.2万人、ウラジオストク市は60.5万人、ウスリースク18万人、ナホトカ16.9万人、アルチョム11.1万人、アルセーニエフ5.8万人等。2012年APECサミットの開催地のため今、建築ブーム。アジア太平洋の窓に指定。1920年ごろ日本人が6,000人いて、今、本願寺跡など日本ゆかりの史跡がいくつか残っている。東アジア太平洋石油パイプライン・プロジェクトの港、シベリア鉄道の基点、札幌市と同緯度(北緯43度、東経132度)、新潟市からの直線距離は約800km、1月の平均気温は氷点下14度まで下がるが、冬でも雪は少なく、乾いた北風が大陸から海に向かって吹き抜ける。夏は30度を超える日も少なくなく、市民が海水浴を楽しむのに最適な時期。現在、日本企業が19社進出、在留邦人は118名、ウラジオストクに日本人観光客は2009年に3,496人。日本の伝統行事も多く開催されている。ウラジオストク日本センターもあり、貿易等の紹介、経済セミナー、日本語講座、ロシア人による「日本文化同好会」「ビジネスマンクラブ」も活動している。ウラジオストクにおける2009年上半期の労働者の平均月収は17,967ルーブル(約5.4万円)。(在ウラジオストク日本国総領事館より)

ロシア極東開発 「投資額28兆円」

管区代表見通し

4/24
2010
B. 松本

的極東開発に向けた第一歩」と指摘。「インフラ開発は日本企業が科学技術やエネルギー、交通などの分野でロシアに投資する新たな機会となる」と呼びかけた。

【モスクワ＝金子夏樹】
インシャエフ・ロシア極東連邦管区大統領全権代表は日本経済新聞に寄稿し、ロシア極東での主要開発プロジェクトの投資額は3000億ルーブル(約28兆円)に達するとの見通しを示した。「極東地域の開発が本格化し、日本企業の投資や開発への参画機会が増える」と指摘し、日本企業の投資に期待を示した。
2012年にウラジオストクでアジア太平洋経済協力会議(APEC)が開催される予定で、極東で大規模なインフラ開発が進む見込み。同代表はAPEC開催を「長期

ロシア進出はウラジオストクから 2010年7月ウラジオストク国際展示会視察4日間

〈ビジネスミッション参加募集〉

2010年4・20

日次	現地発着地・時刻		予定のスケジュール	朝・昼・夕
① 7・1 木	成田発	15:50	XF8828便(約2時間の飛行)	X X R
	ウラジオストク着	20:00	(日本時間18:00)着後、日本語ガイドと専用車で市内へ。 ウラジオストク商工会議所など産業代表者たちと歓迎夕食会。 その後ホテルへ。(H.ヒュンダイ泊)	
② 7・2 金	ウラジオストク滞在		09:00～21:00 日本語ガイドと専用車付き 午前:国際展示会視察 午後:表敬訪問(ウラジオストク商工会議所、州政府と市政府 経済部他) ご希望も承ります。	H R R
③ 7・3 土	ウラジオストク滞在		09:00～21:00 日本語ガイドと専用車付き 午前:国際展示会視察 午後:日本センターでビジネス交流、企業、工場など訪問と商談	(同上泊) H X X
④ 7・4 日	ウラジオストク発	14:30	09:00 視察そして空港へ(空港着12:00)	H X X
	成田着	14:40	XF8827便 着後、解散	

・主催:極東見本市センター 7/1～7/3 国際展示会概要(テーマはアジア・太平洋地域における「健康と美」)

- ①健康 (健康食品、医療、治療)
- ②美 (エステ、化粧品、フィットネス、スポーツ、空気洗浄)
- ③観光 (海外での療養、休暇)
- ④麻・シルク製品

■旅行代金: ¥255,000(予価) ■最少催行人員: 10名様 ■コーディネーター兼通訳者: 同行します(添乗員)
その他詳しくはお問合せください。

■旅行手配: (株)ロシア旅行社
Tel: 03-3238-9101 石元

■協賛: NPO法人 日本・ロシア協会

5. 「健康と美」フェスティバル 詳細

① 目的:

健康的なライフスタイルと、ロシアの国家的優先課題である「健康」を、広範な国民に広めることで、ウラジオストクを、人々に役立つ医療と健康サービスの中心都市とする。

② 展示内容:

- ・ 医療器具と方法(診断、予防、治療)
- ・ 美、若さ、健康のシステムとテクノロジー
- ・ 健康食品、健康飲料
- ・ 自然薬品、化粧品
- ・ エコロジー、衛生、清潔
- ・ 花栽培、フローリスト
- ・ フィットネス、スポーツ、休息、観光
- ・ 海外での治療

③ ビジネス・プログラム

- ・ 健康管理の具体的問題に関するセミナー、円卓会議
- ・ 専門家によるコンサルティング
- ・ 健康的なライフスタイルを広めるアクション計画
「健康な地、ウラジオストク」
「健康なライフスタイルをサポートする青年」
- ・ 美容整形の最新テクノロジーについてのセミナー、円卓会議
- ・ 全ロシア・ネイル・デザイン選手権大会への極東代表選考会
- ・ プロフェッショナル・舞台用メイクアップ・プレゼンテーション
- ・ メイクアップ講習会

※同時開催: 学術会議「市民レベルでの健康管理における医療サービス拡充と諸問題」

2010年7月1～3日
ロシア連邦 沿海地方 ウラジオストク市
“VLAD-EXPO 2010”

第5回「生活の質」国際博覧会

1. 概要

本博覧会は、ロシア連邦メドヴェージェフ大統領令 695 号に基づき、ウラジオストク市建都 150 周年祝賀行事の一環として開催されるものです。

ウラジオストクは、アジア・太平洋地域におけるロシアと諸外国のビジネスおよび国際協力活動の中心地として日々ダイナミックな発展を続けています。

このような中、同市で開催される国際博覧会「VLAD-EXPO 2010」は、ロシア国民に対する新たな商品サービスの提供と、高い質の生活を提案するまたとない機会とであり、ビジネスマンのみならず、広範な層の参加者が見込まれています。

同見本市には、ロシア、中国、韓国、日本、米国、ヴェトナム、インドその他ウラジオストクを国際協力の拠点と見据える多くの諸外国の参加が見込まれています。

一例として、新潟市は、すでに長年にわたり、同見本市において、健康に有益な食品、飲料品、化粧品、花関連商品、空気イオン洗浄機械など、地元の多種多様な産業を代表する企業を参加させています。

“VLAD-EXPO 2010”の主要テーマは、ウラジオストクと周辺諸外国・諸都市との通商・経済関係により、健康に有益な観光、教育、産業の中心地として、同市が今後益々発展することにあります。

同見本市では、建都 150 周年を記念し、多くのテーマ別展示やお祭りイベントも開催される予定です。

国際的基準に見合うハイレベルなライフスタイルに役立つ新たな商品を提案する場として、“VLAD-EXPO 2010”へのご参加をお待ちしております。

(主催者 DAL' EXPOTSENTR 社 案内より)

2. 主催 OOO DALEXPOTSENTR 社(ロシア博覧会見本市連盟会員)

3. 後援 ウラジオストク市政府、沿海地方企業家公共連盟

4. 構成

- 1) 友好・姉妹関係諸都市による展示
- 2) 「健康と美」フェスティバル
- 3) 「亜麻とシルク」フェスティバル
- 4) ハルビンの商品

丸紅、ロシアから小麦輸入

飼料用、年40万ト 調達先を多角化

丸紅はロシア産の小麦の輸入を本格化する。ロシア東部の穀物集荷会社と提携し、3年後に飼料用小麦を年40万ト輸入する計画だ。ロシアからの穀物輸入では最大級で、今後は食用小麦の輸入も検討する。穀物は中国などアジアの需要が急速に増えており、日本の安定調達への懸念が高まっている。小麦は北米や豪州産が輸入の中心だが、新たな供給地としてロシアを確保し、自社の取扱量も拡大する。



ロシア東部のアムール川流域で生産した小麦をウラジオストク港まで鉄道で運び、日本に供給する。現地の集荷会社、アムールゼルノ(ハバロフスク)、ウラジオストク小麦を積み出すウラジオストク港の港灣設備



ロシア東部のアムールの港灣関連会社と近く提携。3社はウラジオストクに合弁会社を設立し、小麦運搬用の貨車を保有して物流体制を整える。丸紅の投資額は合弁への出資を含め当面は約10億円の見通し。

国内の小麦市場(食用・飼料用)は年約630万トで、そのうち約9割を輸入している。輸入元は北米、豪州が中心で、小麦生産量で世界4位前後のロシアからの輸入実績はわずか。ロシア産は低品質とされてきたためだが、ここ数年ロシアの生産体制は改善してきたといわれ、今回の輸入を

決めた。

ロシア東部は従来の産地より近距離。小麦の価格を左右する物流費を抑えられ、価格を1割程度安くできる可能性もあるという。

日本は中国に次ぐ世界第2位の穀物輸入国だが、人口減少が進むなか、

需要は頭打ち。穀物の仕向け先としての世界での地位も下がってきている。代わりに輸入を増やしているのが中国などアジア。従来は日本が輸入量トップだった大豆はここ数年で中国が日本の10倍以上を輸入するようになった。

日本の需要が細るなか、すでに米国などでは日本向け輸出を中国向けに切り替えようとする動きも出てきており、安定調達に向けて産地の多角化が求められている。

丸紅の穀物の取扱量は2009年度は1850万ト。小麦の国内輸入も

年100万ト以上を手がけており、商社ではトップ。産地を多角化し、国内へ安定的に供給する。